華道かどう
(松口月城まつぐちげつじょう)

華道親来瓶器前 此時無我正如仙
春花秋草四時趣 盤上移看大自然

華道かどう 親したしみ 来きたる 瓶器へいきの 前まえ

此この時とき 無む我が 正まさに 仙せんの 如ごとし

春花しゅんか 秋草しゅうそう 四時しいじの 趣おもむき

盤上ばんじょう 移うつし 看みる 大だい 自然しぜん

解説 華道は、植物を主にその他、様々な材料を組み合わせて構成し、鑑賞する芸術である。また、いけばなとも呼ばれる。華道という呼称は「いけばな」よりも求道的意味合いが強調されている。華道にはさまざまな流派があり、様式・技法は各流派によって異なる。

語釈 ※瓶器Ⅱ花器のこと。※無我Ⅱわれを忘れてすること。※四時Ⅱ一年の四つの季節、春夏秋冬の総称。四季。

通釈 わが国古来の華道に精進して、花器の前に座れば、俗世を離れて仙人の境地そのままである。四季折々の趣があつて、正に大自然を水盤上に移してみる如くである。